

ドラマティック日本史第5弾

【長谷川等伯】狩野派に挑んだ激動の生涯

講師：若村亮先生

日時：6月8日(月)



若村先生の講座は、講義に入る前にしてくださる時事ネタも、とても面白いです。本日は、祇園祭長刀鉾のお稚児さんが決まったという、京都らしいニュースから。

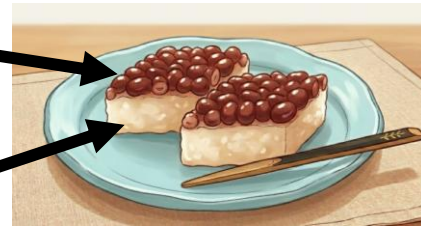
神の使いであるお稚児さんは、なぜ子供なのか？・・・

大人になると、清めても、けがれを清めきることができないそうです(笑)

6月30日になると、京都では夏越の祓のため、多くの神社で茅の輪が設置されます。8の字を描くようにくぐって、半年間に溜まった穢れを祓い清め、残り半年の無病息災を祈ります。この時食べるお菓子『水無月』にも意味があるそうです。

小豆は赤色で、魔よけの意味

宮中では氷を食べて暑気払いをしていたが、庶民に氷は手に入らないため、お菓子で氷を模した



本日の講義は、長谷川等伯の生涯を熱く語っていただきました。

1539年 能登の国七尾に生まれる。

1571年 (33歳) 父母を亡くしたことを契機に、幼い息子久蔵を伴って京都へ決して若くない30代からの挑戦!!

1589年 (51歳) 大徳寺塔頭の三玄院に、住職春屋宗園が留守の間に部屋に上がり込み、襖に山水画を描く。住職が戻り最初は激怒するも、あまりの見事さに感嘆する。この行動が吉となって、大寺院の障壁画制作につながっていく。

1590年頃 狩野派 VS 長谷川等伯

京都御所造営に際して、襖絵揮毫の受注を得たにもかかわらず、狩野永徳に阻止される。



- 1592年 (54歳) 狩野永徳が過労死で亡くなったこともあり、等伯は画壇の頂点へ！
豊臣秀吉の長男鶴松の菩提を弔うために建立した祥雲禅寺の障壁画を任せられ、
楓図屏風を描く。
- 1593年 (55歳) 良き理解者だった千利休が切腹。
同年、後継者だった息子久蔵が26歳の若さで急死。 ←狩野派による毒殺説あり!!
- 1593-95年 悲しみを乗り越え、代表作となる松林図屏風を描く。
- 1610年 (72歳) 天下は徳川家康の時代になり、新たなパトロンを探すため高齢をおして次男の
宗宅を伴い江戸へ。途中で病にたおれ、江戸に到着後2日目で亡くなる。
翌年宗宅も亡くなり、長谷川一門の命脈が尽きる。

午後からは、初めての班活動がありました。

4班： 茨木神社散策後、昼食会

2・3・7班： 高槻市の明治製菓の工場見学(合同で計11名の参加)

7班の活動の様子



7班 班長さんの感想：12時～15時までの行動時間でした。

工場見学での明治製菓の対応がとても丁寧で、

消費者が安心して食べられると納得できる説明でした。

帰りにはお土産までいただき、満足して解散しました。楽しい見学会でした。

(記事：7班広報 吉田綾子)